

2022年 4月 2日

Explore Ibaraki (茨木探訪)報告

野外活動分科会

[概略]

テーマ：桜を愛でつつ茨木南部の魅力再発見

実施日時：2022年4月2日（土）9：30～12：15

行程：阪急南茨木→蓮花寺→文化財資料館→銅鐸鑄型出土地→佐和良義神社→S L公園→茨木童子像

全行程：徒歩 4.4 km

参加人数：22名（会員20名、ゲスト2名）

[詳細]

9：30南茨木駅に集合。簡単な注意と説明後、第一の目的地蓮花寺へ。

1. 蓮花寺：「しょぼい・・・」と言うなかれ。奈良時代、行基が、池から光が発するのを見て、この地を霊地と認め伽藍を建立したという由緒ある寺なのです。応仁の乱（15世紀）でほぼ焼失しましたが17世紀に再建されました。鐘楼の名鐘は太平洋戦争の金属抛出で抛出したまま戻ってないそうですから、この点でも戦禍を被っています。なまめかしい十一面観音立像と素朴な地藏菩薩立像は大阪府の有形文化財です。普段は非公開なので特別公開の日を楽しみに待つことにしましょう。



2. 文化財資料館：「市民が気楽に訪れ、まちの歴史や文化に親しみ、郷土愛を育てる場」として作られた資料館です。説明の時には二人の可愛いお孫さんが大活躍。「おばあ様」の説明に合わせて写真を掲げてくれ、連絡プレーがとても幸せな気分させてくれました。お手伝い、ありがとう！！さて、勇んで資料館に入ってびっくり、いや、がっかり。4月1日から9月30日まで1階展示室改装のため閉鎖でした。下見の時あまりに面白くて長居しただけに、皆さんにも楽しんでもらいたかったのですが、リサーチ不足で申し訳ありません。是非秋にリベンジ訪問をしたいです。



ここで、今回のゲストのナムさん夫妻と合流。自己紹介をしていただきました。色々な体験をされたナムさんには5月12日の例会のゲストスピーカーをお願いしています。どんなスピーチをしてくださるか、楽しみです。



3. 銅鐸鑄型出土地：今では高層マンションが林立する開発地域ですが、ここで茨木の小中学生が1976年銅鐸の鑄型を見つけました。郷土史家の宇津木秀輔氏作成の絵を基に、この鑄型がどのように作られ、また銅鐸はどのように使用されたか、弥生人の一人称で話されました。勿論、銅鐸に関しては諸説あるのですが、話を聞きながら、すっかり我々も弥生人になり、農耕祭祀と一緒に参加している気分になったのでは？？姉妹都市のミネアポリス・ニコレット島に設置されている「双珠の鐘」はこの鑄型を基に作られた鐘で国際交流20周年を記念し茨木市から贈られました。



4. 佐和良義神社：「サワラギ」の「サワラ」は銅を「ギ」は邑を表し、この辺りは 2000 年前の弥生時代から銅生産をしていた場所です。邑の守護神として火の神・加具土命を祀ったのが佐和良義神社と言われています。加具土命の「カグ」も銅を表すそうですから、人々は銅を大切にしていたのです。室町時代、神社西側に沢良宜城が造られ、その鎮守として八幡宮も建立されました。それ故、ここには佐和良義神社の参道、八幡宮の参道、そして沢良宜城の馬場という 3 本の道が並んでいて、しかも一番東側は元茨木川で今は桜通りが走っています。古代から現代までの歴史を一気に感じられる場所かもしれません。



5. SL 公園：ペリーが開国交渉にあたり持参したという蒸気機関車の模型が日本人と SL の出会いです。それから 18 年で鉄道開通にこぎつけ、今年で鉄道敷設 150 周年です。茨木市には日本最初期の鉄道構造物が多く残っており貴重な歴史遺産となっています。この公園では SL の代表格 D51 と半世紀前まで現役だった踏切、転轍機、信号がおかれています。柵で囲まれて少し見にくいのですがその分、保存状態は良好で、各地で SL の放置が問題になっている中、この SL は幸せですね。因みに Steam Locomotive の略称の SL は和製英語なので英語を母語にする方には??とか。



以上、南茨木周辺の施設 5 か所を回った後、桜通りに戻り、まずは記念撮影。その後、各々のペースで満開の桜を楽しみながら茨木童子を目指しました。道中、ミネアポリスの方が来られた 3 年前、満開の桜に感嘆の声をあげられた話や、「どんだけ買うねん?」と思うほど徳利とお猪口を買っていた話など、懐かしい思い出に話が弾み、早くあの交流が再開できればと強く思ったことでした。

12時15分 予定通り、茨木童子前で解散。皆さまお疲れさまでした。

次回、5月28日には「薔薇を愛でる」をテーマに Explore Ibaraki 開催予定です。ご参加お待ちしております。

